

平成19年度

# 決算のあらまし

平成19年度の一般会計を含む12会計の決算がまとまりましたので、お知らせします。決算については、9月22日から開かれている市議会（定例会）で審議されています。

▽詳細 財政課（市庁舎5階、電話65・4106）

## 平成19年度決算の概要

市では、第五期総合計画の着実な推進を基本に、市民の皆さんが安心して暮らすことのできる、豊かで活力にあふれる都市として発展することを目的に事業を行いました。特に「地域経済の活性化」「市民協働の推進」「将来の発展の基盤づくり」「安全なまちづくりの推進」を重点的に取り組むこととし、限られた財源のなか、優先的に事業を進めました。

## 一般会計の収支

平成19年度の決算額は、歳入が743億743万756円、歳出が740億878万6千円となり、差引額は2億878万6千円の黒字となりました。（図1）

### 一般会計の収入の状況

平成18年度と比較し、所得譲与税の廃止、地方特例交付金・交付税等の減少により23億円の減少となりましたが、国の三位一体改革による税源移譲等で市税が13億円、国や道からの支出金が8億円、寄附金が4億円、基金繰入金金が6億

### 一般会計の支出の特徴

平成18年度と比較し、障害者自立支援、あじさい保育園建設等により民生費が9億円、中小企業振興融資貸付金等により商工費が8億円、稲田小学校体育館改築等により教育費が3億円、北海道市営競馬組合清算負担金等により諸支出金が14億円増加となり、平成19年度支出全体では、37億9千万円の増加となりました。

図1 一般会計の収支

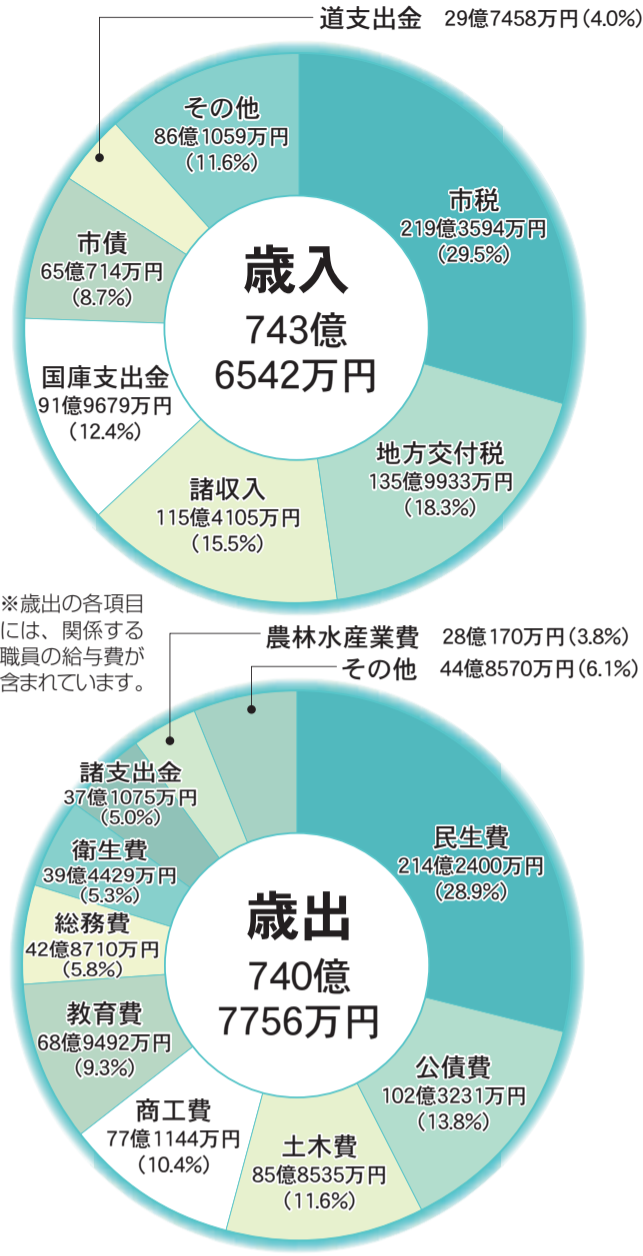


図2 特別・企業会計の決算

### 特別会計

会計区分	歳入	歳出	実質収支
国民健康保険会計	174億3461万円	175億7387万円	△ 1億3926万円
老人保健会計	140億8929万円	142億2546万円	△ 1億3617万円
介護保険会計	85億4863万円	83億7709万円	1億7154万円
中島霊園事業会計	1億3547万円	1億3547万円	
簡易水道事業会計	9913万円	9913万円	
農村下水道事業会計	9250万円	9250万円	
ばんえい競馬会計	134億8854万円	134億8818万円	36万円
駐車場事業会計	1億6129万円	1億6129万円	
空港事業会計	6億7304万円	6億7304万円	

### 企業会計

会計区分	収入	支出	収支差引
水道事業会計	66億1022万円	74億5725万円	△ 8億4703万円
下水道事業会計	82億7282万円	95億6618万円	△ 12億9336万円

## 特別・企業会計の決算

帯広市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険事業や介護保険事業など、特別の目的のために一般会計とは区別して経理している特別会計があります。平成19年度から加わったばんえい競馬会計を含め9つの特別会計があります。また、水道事業など独立採算の2つの企業会計があります。特別会計と企業会計の決算額は、それぞれ次のとおりです。（図2）

## 平成19年度に実施した主な施策とその成果

- 安心安全都市をめざして**
  - 犯罪のない安全なまちづくり条例の制定
  - 先輩ママさん訪問員制度（登録数27人）
  - 農村部助っ人ファミリー事業（延べ利用者数19人）
  - 耳マークの設置（市庁舎、支所等400個）
  - 自立支援給付・自立支援医療の利用者負担軽減の拡大
  - 小規模多機能型居宅介護拠点の整備（2カ所）
  - 認知症対応型共同生活介護の整備（2カ所）
  - 保育所の整備（移転改築1カ所、乳児室増築1カ所、改修・用地取得1カ所）
  - 児童保育センターの整備（川西開所、栄移転）
  - 保育所乳児受入枠の拡大（私立6人、夜間2人）
  - 帯広市耐震改修促進計画の策定
  - 消防署出張所の整備（大空・南出張所統合による移転改築）
  - おびひろ救命アシスト事業（協力証交付施設17件）
- 産業複合都市をめざして**
  - 帯広リサーチ・アンド・ビジネスパーク構想の策定
  - 地元農畜産物の販路拡大促進
  - 肉用牛の生産振興（定期巡回指導、肉用牛放牧実証試験等）
  - 農地・水・環境保全向上対策共同活動支援
  - 木材の新しい総合利用システムモデル事業
  - バイオオマスタウン構想の推進
  - 馬産振興および馬文化の継承（リッキー号の嘱託採用、ばん系馬の生産振興等）
- 環境共生都市をめざして**
  - ばんえい競馬帯広市単独開催
  - 帯広まちなか歩行者天国事業に対する支援
  - 中心市街地活性化基本計画の推進に対する補助
  - 駅前交通広場の照明改良（駅北29基、駅南25基）
  - 5リットルごみ袋の導入
  - 十勝飛行場周辺支障木の伐採
  - （仮称）帯広の森市民活動センター基本設計
- 生涯学習都市をめざして**
  - 特別支援教育補助員の拡大（21人増）
  - 情緒障害児学級の新設（小学校5校、中学校1校）
  - 小中学校体育館の耐震化の実施（補強工事3校、改築1校）
  - 子ども安全ネットワークの構築（市教委配信回数23回）
  - 子どもの居場所づくり（4校開設）
  - 放課後子ども広場の開設（2校開設）
  - 教員リーダー養成「21世紀」教師塾の実施（実施研修数5回、延べ受講者数85人）
  - こども議会の開催（21人）
  - 動物園のサル舎整備
  - パークゴルフ場のユニバーサルデザイン化
  - （仮称）新帯広の森スピードスケート場の整備
- 広域連携都市をめざして**
  - マディソン市長の招聘
  - 自主自律のまちづくりをめぐって
  - 市民提案型協働まちづくり支援事業（6事業実施）
  - おびひろまち育てプランの策定
  - 帯広市・川西村・大正村合併50周年記念事業の実施

# バランスシートに見る帯広市の資産と負債

## なぜバランスシートを作成しているの？

地方自治体の一般会計、特別会計の予算・決算は、1年間のお金の出入り（フロー）のみを表したものになっているため、今ある公共施設などの資産価値やこれから返済しなければならぬ借金などの負債がどのくらいあるのか（ストック）を読み取ることはできません。

そこで、それらの状況が一覧で対比できるように、民間企業などで用いられている「複式簿記」で整理された「バランスシート」を作成しています。

## バランスシートから分かること

平成20年3月31日現在、市が所有している総資産額は約2390億円、負債約1150億円、正味資産約1240億円となります。（図3、図4）

### 資産

資産の内訳は、道路・公園・学校などの有形固定資産が約89・8パーセントを占めています。平成19年度は、稲田小学校体育館の改築や、消防署南出張所建設による増加要因がありました。これまでの資産についての減価償却や、貯金に相当する基金を取り崩した事などにより前年度対比約11億円の減少となりました。

### 負債

負債は、資産総額の約48・1パーセントを占めていて、そのほとんどが将来返済しなければならぬ借金（地方債）です。平成13年度の制度改正により地方交付税の一部が地方債（臨時財政対策債）に振り替わったことなどによる増加要因はありますが、借金を増さないように努めているため、前年度対比約16億円の減少となりました。

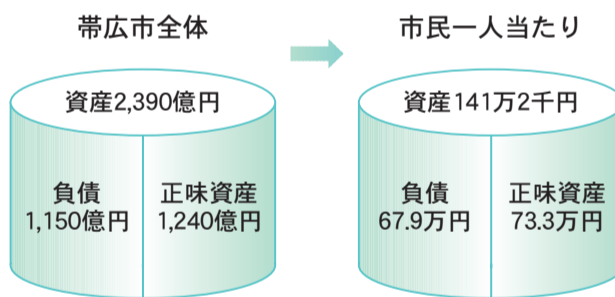
図3 平成18・19年度帯広市普通会計バランスシート

借方	平成18年度	平成19年度	差額
<b>【資産の部】</b>			
1. 有形固定資産			
(1)市庁舎等	10,111	9,933	-178
(2)保育所等	3,321	3,229	-92
(3)ごみ処理施設等	2,865	2,870	5
(4)労働施設等	118	112	-6
(5)農業施設等	8,128	7,678	-450
(6)観光施設等	4,166	4,154	-12
(7)道路・公園・住宅等	131,771	131,788	17
(8)消防庁舎等	3,243	3,427	184
(9)教育施設等	51,548	51,292	-256
(10)その他	86	86	0
(うち土地)	68,387	69,508	1,121
有形固定資産合計	215,357	214,569	-788
2. 投資等			
(1)投資及び出資金	14,933	15,111	178
(2)貸付金	747	577	-170
(3)基金			
①特定目的基金	4,554	4,589	35
②土地開発基金	0	0	0
③定額運用基金	0	0	0
基金計	4,554	4,589	35
投資等合計	20,234	20,277	43
3. 流動資産			
(1)現金・預金			
①財政調整基金	1,324	810	-514
②減債基金	0	0	0
③歳計現金	332	288	-44
現金・預金計	1,656	1,098	-558
(2)未収金			
①地方税	2,418	2,561	143
②その他	289	304	15
未収金計	2,707	2,865	158
流動資産合計	4,363	3,963	-400
資産合計	239,954	238,809	-1,145

平成20年3月31日現在（単位：百万円）

貸方	平成18年度	平成19年度	差額
<b>【負債の部】</b>			
1. 固定負債			
(1)地方債（長期借入金）	91,649	90,396	-1,253
(2)債務負担行為			
①物件の購入	1,676	816	-860
②債務保証又は損失補償	0	0	0
債務負担行為計	1,676	816	-860
(3)退職給与引当金	15,614	16,130	516
固定負債合計	108,939	107,342	-1,597
2. 流動負債			
(1)地方債翌年度償還予定額	7,559	7,552	-7
(2)翌年度繰上充用金	0	0	0
流動負債合計	7,559	7,552	-7
負債合計	116,498	114,894	-1,604
<b>【正味資産の部】</b>			
1. 国庫支出金	58,544	57,786	-758
2. 都道府県支出金	9,921	9,397	-524
3. 一般財源等	54,991	56,732	1,741
正味資産合計	123,456	123,915	459
負債・正味資産合計	239,954	238,809	-1,145

図4 平成19年度バランスシートを市民一人当たりへ換算（人口169,156人）



正味資産は、資産を形成するために使ったお金のうち、皆さんが納めた市税をはじめ、国や道からの補助金等を財源としたもので、今後返済しなくてもよい支払い済みのものであります。

健全な財政運営の観点からは正味資産が多く、負債が少ないことが望ましいとされています。平成19年度の正味資産の比率は、51・9パーセントで、前年度より0・5ポイント上昇しています。

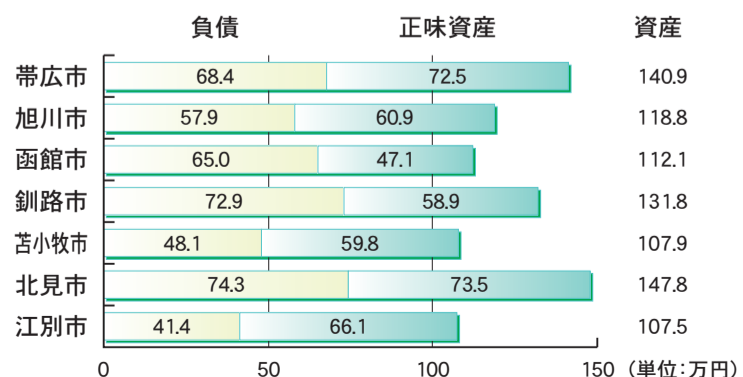
# 道内他都市と比べると…

## 市民一人当たりのバランスシート

平成18年度決算で他都市と比較すると、帯広市は、一人当たりの資産が多く、このことは公共施設などが充実していることを示しています。

しかし、負債も多く、公共施設整備のため借入れた借金などの将来の負担も大きいことがわかります。

図5 平成18年度市民一人当たりの資産と負債



## 世代間の負担比率

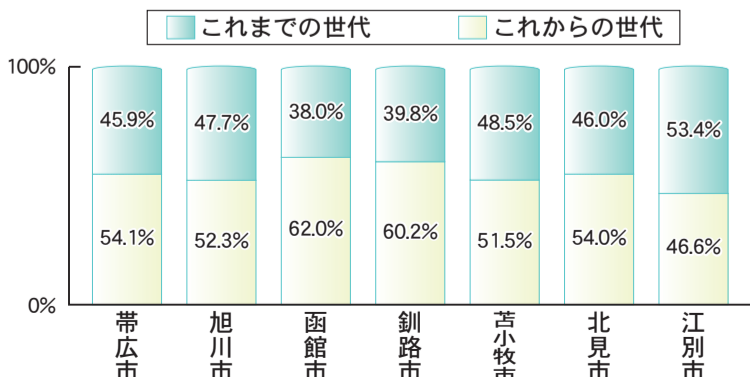
有形固定資産のうち、既に負担（支払われた）した割合と、これから負担しなければならぬ割合を表したものです。

これからの負担割合が大きいと財政の硬直化を招きますが、「世代間負担の公平化」の観点からは、既に負担された割合が高ければ良いということではありません。

帯広市は、道内他都市との比較では標準的な割合となっています。

(図6)

図6 世代間負担比率



※なお、財務指標その他の財政状況については、冊子「帯広市の台所事情」として、財政課にて配布しております。（ホームページにも掲載しております）